

平成26年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	学園都市化構想連携協力推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課		
総合計画体系			根拠法令計画など	鳴門市、鳴門市教育委員会及び鳴門教育大学との鳴門市学園都市化構想に関する連携協力協定書		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成	24年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期	未定
(小項目)	大学連携					
施策	4	大学連携の推進				
基本事業	2	学校教育における連携				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の保育所、幼稚園、小・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	「鳴門市、鳴門市教育委員会及び国立大学法人鳴門教育大学との鳴門市学園都市化構想に関する連携協力協定書」に基づく連携協力校が、鳴門市内全体の保育所、幼稚園、小学校及び中学校に拡充し、各校(園)における課題解決や教育・保育の充実・向上をめざす。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名 連携協力保育所・幼稚園・小学校・中学校	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	単位
			-	6	6	6	6	校(園)

◎実施結果(DO)

事業実施内容	25年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	鳴門町地区をモデル地区として取組を開始し、6校園の校(園)長と協定書に基づく連携協力事項について協議を進め、25年度及び26年度の実施計画を定めた。 具体的には、新たに学習活動を支援する「学習支援サポーター制度」を設け、鳴門教育大学の学生21人が小・中学校において授業支援等に活躍するとともに、従来から運用してきた「特別支援教育サポーター」「部活動等支援ボランティア」も積極的に活用した。さらに児童図書室等の大学施設や教育支援講師等の派遣など鳴門教育大学の教育資源を有効活用する取組を進めた。						
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
指標名		24年度実績	25年度実績	26年度目標	27年度目標	28年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	学習支援サポーター活動人数	-	21	40	40	40	人
	2							
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	連携協力保育所・幼稚園・小学校・中学校		-	6	-	-	-	校(園)
	目標達成率(実績/目標)			100.0	-	-	-	%

コスト分析		24年度実績	25年度実績	26年度	27年度	28年度	単位	
事業費	(財源内訳の合計)		0	95	233	-	-	千円
	財源内訳	国	0	0	0			
		県	0	0	0			
		地方債	0	0	0			
		その他	0	0	0			
		一般財源	0	95	233			
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		0	652	652	-	-		
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)		0.1	0.1			人	
	臨時職員等(2,012千円/人)							
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		0	747	885	-	-	千円	

【事務事業名：学園都市化構想連携協力推進事業】

◎平成26年の実施状況(DO)

現在の実施状況	平成26年度鳴門市学園都市化構想実施計画に基づき、以下の項目について、鳴門市、鳴門市教育委員会および鳴門教育大学の3者で取組を開始している。 ①幼児教育・保育に関すること ②学力向上に関すること ③生徒指導に関すること ④課外活動に関すること ⑤教育研究活動に関すること ⑥その他3者が協議して必要と認めること(特別支援教育に関する学生ボランティア、施設利用)
---------	---

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	教育・保育分野での一層の連携協力体制の構築は、保育所、幼稚園、小・中学校の教育・保育の充実・向上につながっている。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 大学連携の推進 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑥ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	8	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	学生ボランティア、教育支援講師・アドバイザーの派遣は、各校(園)においてよりきめ細やかな指導の充実や課題解決につながっていると同時に、大学の施設利用により、園児・児童生徒は、より充実した体験活動を行うことが可能となっている。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業目標が達成できるような事業内容になっている。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業対象は適切である。			
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。			
/10			
3.効率性の評価		理由等所見欄	
8	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	学校(園)は鳴門教育大学から、その教育資源の提供を受けるとともに、大学の教育研究への協力を行うといったように、相互に連携協力を行っており、取組については、協議の上、実施計画を策定している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題	鳴門町地区をモデル地区として、6校園の保育所、幼稚園、小・中学校を対象として、一層の連携協力体制の構築に向けた取組を開始したが、将来的に、市全体に取組を拡充し、市内の教育・保育の充実・向上を図るために、モデル地区における課題や効果の検証を深め、将来的な方向性に向けて検討を進める必要がある。				
ほ	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	未定 ▼ 月未定 ▼			
	どのように改革するのか	平成25年度から鳴門町地区をモデル地区として取組を開始したところであり、まずは、モデル地区においての取組を充実することが必要であるため、6校園の校長(園長)もメンバーとする「総合調整プロジェクト」で課題や効果を検討し、課題解決や新たな取組について協議を進め、毎年度の取組を定める実施計画を策定する。さらに、将来的な方向性に向けて、鳴門教育大学と検討を進める。			